

## 平成30年度第6回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「湖岸植生帯はどのように再生していくのか」を実施しました。

日 時：平成30年9月2日（日）午前9時30分から午後2時まで

場 所：霞ヶ浦環境科学センター下，自然再生地H地区及び霞ヶ浦環境科学センター

参加者：15名

結 果： 当日は秋雨前線により朝から雨模様で，実施が危惧されましたが，参加者の多くが集合時間までに集まりました。集合の時点で小雨が降っていて，しばらく天候の様子を見ることを考えましたが，参加者の皆さんは雨具の用意ができているようなので，とりあえず湖岸に向かうことになりました。センターを出る前に，これから行くセンター下の自然再生地H地区と呼ばれている場所の空中写真を使い，植生帯の変遷を説明しました。昭和36年頃には堤防に沿って植生帯があり，一部は幅が10m以上もありましたが，その植生帯がどんどん消滅したり，幅が狭くなったりして，工事開始前には植生帯がほとんどなくなっていることを話しました。

堤防に到着した頃には雨はほとんど上がりました。植物が雨で濡れているのと水位が少し上昇しているので，植物群落の中には入らず堤防からの植物観察としました。現在H地区はガマが繁茂し，ガマ，ヒメガマ，コガマの3種類が見られるガマ群落となっています。その中に黄色のきれいな花をつけたアメリカミズキンバイ（ヒレタゴボウ），金色に輝くホソミキンガヤツリなどの帰化植物や，白い花を咲かせ，矢じり型の大きな葉を持つオモダカ，丸いボンボンのような花のタマガヤツリ，帰化植物でも特定外来植物になっている，水面上に広がっているオオフサモ，などを観察しました。沈水植物では帰化植物のコカナダモ，浮遊植物のウキクサやオオアカウキクサも観察しました。

次に堤防上を移動し，ヨシ群落内にできた観察路に入りました。入口ゲート脇にはノアズキが黄色い花をたくさん咲かせ，ゲートを入ったところには同じマメ科植物のツルマメが小さな花を咲かせていました。アメリカタカサブロウやアメリカセンダングサなどの帰化植物の中に，絶滅危惧植物となっている，白い花がきれいに並ぶタコノアシもたくさん見られました。

最初は，スコップでヒメガマの地下茎を掘上げ，地下茎の状態を観察する予定でしたが，この観察は中止し，午後に写真で見せました。

午後は降雨の心配もあり，福田先生が雨天時のために用意していた，霞ヶ浦の植物の写真を皆さんで鑑賞しました。最後に腰塚が自然再生についての話をして終了しました。

観察した植物は76種，その内，カヤツリグサは7種でした。

次に観察会の様子を紹介します。

（腰塚昭温）



植物観察の様子



ヒレタゴボウ



ホソミキンガヤツリ



タコノアシ



エゾミソハギ